

国語

令和七年度

本検査 学力検査

国語

問題用紙

解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「」などの符号も字数に数えること。

聞き取り検査受検上の注意

- (1) 最初に聞き取り検査を行います。
- (2) 聞き取り検査は放送で行います。問いも放送します。放送は全て一回だけです。
- (3) 放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。
- (4) 放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

(注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開いてはいけません。
- 二 答えは、HB又はBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使って、全て解答用紙に記入しなさい。

三 検査問題は、大問七題で、1ページから14ページまで印刷されています。また、解答用紙は、両面に印刷されています。

四 氏名、受検番号は、検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。

五 マーク式で解答する問題は、○の中を正確に塗りつぶしなさい。

良い例	悪い例
	
	
	
	

六 記述式で解答する問題は、解答欄からはみ出さないように書きなさい。

七 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書き、消しくずを残してはいけません。

八 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

九 解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

令和七年度 **本 検 査** 学力検査
国語聞き取り検査放送用CD台本

(チャイム)

これから、国語の学力検査を行います。まず、問題用紙の1ページと2ページがあることを確認しますので、問題用紙の最初のページを開きなさい。

(3秒空白)

確認が終わったら、問題用紙を閉じなさい。1ページと2ページがない人は手を挙げなさい。

(5秒空白)

次に、解答用紙を表にし、受検番号、氏名を書き、受検番号は、その数字のマーク欄を塗りつぶしなさい。また、解答用紙の裏にも受検番号を書きなさい。

(40秒空白)

最初は聞き取り検査です。これは、放送を聞いて問いに答える検査です。問題用紙の1ページと2ページを開きなさい。

(2秒空白)

- 一 これから、坂本さんと加藤さんが、昨日の出来事について話す場面と、それに関連した問いを三問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。
なお、やりとりの途中、(合図音A)という合図のあと、問いを放送します。また、(合図音B)という合図のあと、場面の続きを放送します。
1ページと2ページにメモをとってもかまいません。では、始めます。

坂本 ねえ、加藤さん。昨日、道で会った時のことだけれど、どうしてあんなに急いでいたの？

加藤 あ、あれねー、バスで、練習試合に向かった兄に、忘れ物を届けに行こうとしていたんだ。

坂本 それは大変だったね。…あれ？ お兄さんが、バスで練習試合に向かったの？ それとも、加藤さんが、バスでお兄さんの所へ行ったの？

加藤 え？ バスで行ったのは自分で、兄は自転車で行ったんだよ。

坂本 さっきの言い方だと、お兄さんがバスで向かったのか、加藤さんがバスで向かったのか、分からなかったよ。

(合図音A)

問いの(1) 加藤さんが話したことについて、坂本さんが理解できなかったのはなぜですか。最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(18秒空白)

(合図音B)

坂本 もう一度聞くけれど、どうしてあんなに急いでいたの？

加藤 ちゃんと説明したつもりだったんだけどなあ。昨日は、兄が出かけた後しばらくして忘れ物に気づいてさ。練習試合が始まる前に届けないといけないから、

急いでいたんだ。最寄りのバス停の出発時刻を見たら、あと5分しかなくて、焦っちゃったよ。

坂本 そういうことか。言いたかったことが、やっと分かったよ。

加藤 ごめん、説明が足りなかったね。話す側は、自分が分かっているから意識せずに話してしまうけれど、それだと聞く側は、初めての情報で分かりづらかったり、間違えて捉えてしまったりすることもあるんだね。

(合図音A)

問いの(2) 二人の会話から、加藤さんの説明に不足していたのはどのようなことですか。最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(18秒空白)

(合図音B)

坂本 そうだね。友だちや家族が相手だと、簡単に話しても分かってくれると思うよね。実はこの前、姉に「いつものノートを買ってきて。」とお願ひしたのだけれど、失敗してしまったの。

加藤 どういうこと？

坂本 本当は、表紙が色違いのノートのセットが欲しかったのだけれど、買ってきてくれたものは、表紙が同じ色のセットだったんだよね。

加藤 それだと伝わらないよ。「いつもの」だけで、そう聞き取るなんて無理だよ。

坂本 姉は、いつも表紙が色違いのノートを使っていたし、以前一緒に買いに行った時もそうだったから、伝わると思ったんだよね……。

加藤 相手に分かりやすく説明するのは、意外と難しいなあ。親しい人との会話でも、伝えるべき内容を相手に正しく伝えられるように、意識しないといけないね。

(合図音A)

問いの(3) 二人は、「親しい間柄だからこそ伝わらない場合がある」と話していますが、その原因として最も適当なものを、選択肢ア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(5秒空白)

放送は以上です。3ページ以降も解答しなさい。

※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に
字数制限がある場合には、句読点や「」などの
符号も字数に数えること。

これから、坂本さんと加藤さんが、昨日の出来事について話す場面と、それに関連した問いを三問放送します。よく聞いて、それぞれの問いに答えなさい。

(放送が流れます。)

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 加藤さんが「バスで」と唐突に話し始めたために、坂本さんの関心が「バスで」という手段の方へと移ってしまったから。
- イ 坂本さんは加藤さんが急いでいた理由が予想外のものだったので、加藤さんの言葉を間違えて捉えてしまったから。
- ウ 加藤さんが「バスで」という手段から話し始めたために、「誰」がバスで行ったのかという主語がはつきりしなかったから。
- エ 坂本さんは加藤さんの答え方があいまいだったので、もっと深刻な理由があったのかもしれないと考えてしまったから。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 加藤さんが急いでいたのは、兄から、すぐに忘れ物を届けてほしいと言われたからだということ。
- イ 加藤さんが急いでいたのは、練習試合開始の5分前に、兄の忘れ物に気づいたからだということ。
- ウ 加藤さんが急いでいたのは、最寄りのバス停からの出発時刻を、忘れていたからだということ。
- エ 加藤さんが急いでいたのは、最寄りのバス停からの出発時刻が、迫っていたからだということ。

(3) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 自分の思いが強すぎてしまい、相手との温度差が浮きぼりになることによって、深い溝ができてしまうこと。
- イ 相手との関係を考えずに、自分の考えを一方的に押し付けることで、相手を不快な思いにさせてしまうこと。
- ウ 自分にとつての常識が、絶対に正しいと思い込んでしまうことにより、見当違いの結果を生んでしまうこと。
- エ 相手との過去の関わりから分かり合えている気になり、詳しく説明しなくても、伝わると思うってしまうこと。

聞き取り検査終了後、3ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の――の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) シルクとは絹のことだ。
- (2) 淡い色が流行する。
- (3) 静寂な空間で過ごす。
- (4) 戸籍謄本を提出する。

三 次の(1)～(4)の――のカタカナの部分に漢字に直して、楷書で書きなさい。

- (1) コマっている人に声をかけた。
- (2) 生きる知恵をサズかる。
- (3) 千葉港からの定期コウロを調べる。
- (4) シヨシ貫徹で長年取り組んだ。

四 次の文章を読み、あとの(1)～(6)の問いに答えなさい。

サイエンスとアート。相反する点は、いくらでもあげられる。

たとえば、普遍性と偶然性。サイエンスの実験では、条件をそろえれば毎回同じ結果になることが求められる。データは平均化され、一回きりの出来事は「外れ値^A」として扱われる。しかしアートでは、偶然性がだいにされ、平均値よりも「外れ値」にこそ光があてられるようなことが多い。

たとえば、「わたし^B」の存在。サイエンスの論文では、「思う」より「考えられる」という表現が好まれる。だれが考えてもそう解釈できる無理のない論理だという意味だ。つまりサイエンスは、できる限り「わたし」を排除する。いっぽうでアートは、むしろ「わたし」がなければじまらない。「わたし」がこう思う、「わたし」はこう感じる。ほかのだけれど気づかなかった「わたし」の「思う」や「感じる」を切り出して表現する。解釈も鑑賞者によって異なり、そこに一つの正解があるわけではない。

もはや一八〇度違う部分も多いのだけれど、サイエンスとアートは対極に位置するわけではない。むしろ、その根っこにこそ共通するものがある。

その思いを強くしたきっかけが、芸大に入ったばかりのころ、特別講義でこられた内藤礼さん(現代美術)のお話だ。

「たとえばいま、木漏れ日^Cからさす光がカーテンにきらきら映し出される感じ。そんなふだんの生活のなかの一場面や自然の美しさを、**D**、と感じている。ほんとうはそうして自分で感じているだけではないのだけれど、その「感じ」をアートのなかに表現したい。別にだれ

がしなくてもいいのだけれど、やらずにはられない。わたしは、究極に美しいものをつくりたい」

この言葉が、研究者として自分が目指す姿勢と重なり、サイエンスからアートの分野に足を踏み入れたときの迷いを吹き飛ばしてくれた。

そして言葉をかみしめるうちに、どちらも核となるのは、身のまわりの出来事や現象に目を向けて「！」と感じるころだと思うようになった。「！」は、そのときによって「いいなあ」のこともあれば「ときどきや『ざわざわ』」のこともある。日々のちよつとしたことこころが動く、いわば「プチ感動」にその芽があると思った。

大胆に一般化するならば、サイエンスは「！」を「？」に変えて、その答えを追究していくもの。いっぽうのアートは「！」をかたちや音に表現していくもの。そんなふうにシンプルに表せるのではないかと考えるようになった。

ただし一口にサイエンスといっても、いろいろな分野がある。分野によって違うのは「！」から「？」をどう導くか。「？」にもHow?やWhy?などさまざまな問いの立て方があるし、どこに着目して問いを立てるかで、その先のアプローチが大きく異なる。

たとえば木漏れ日のなかに「！」を見つけた場合。光がどのように干渉してパターンをつくるかを考えるのは物理学で、木漏れ日の下でどんな実生(みしょう)が育つのかと考えるのは植物学。木漏れ日を心地よく感じるのはなぜかと考えるのは認知科学で、ほかの言語に「木漏れ日」という言葉はあるのかという視点なら言語学や比較文化学かもしれない。

あるいは、実学的な分野なら「！」や「？」を生活に役立てる方法を考え

る。たとえば工学なら木漏れ日を建築に応用する方法を考え、医学ならば木漏れ日の心地よさがストレスの軽減や症状の改善に役に立つかどうかを調べるだろう。

実際に、地球流体力学が専門の酒井敏さんは、シエルピンスキー四面体というフラクタル構造に木漏れ日のような日除け効果があることを発見し、「フラクタル日除け」を開発した(フラクタルとは、部分と全体が自己相似している図形で、樹木や海岸線などの自然界の構造によく見られる)。さらに建築家の坂茂さんが、台湾の美術館の設計にそれを応用したという例もある。

こうして考えてみると、文系か理系かということよりも、サイエンス、いや広く学問の分野によって問いの立て方が違うことを知った方がいい。そして、どんな分野に進むにしても、まずは「！」を感じるころと「？」を探すころを磨くことが肝心ではないか。

(齋藤亜矢『ルビンのツボ——芸術する体と心』による。)

(注1) アプローチⅡ取り組み。研究対象に近づくこと。

(注2) バターンⅡくり返し現れる特定の形や構造。

(注3) 実生Ⅱ種子から発芽して生じた植物。

(注4) 認知科学Ⅱ人間やその他の生物の認識機能を対象とする科学。

(注5) 比較文化学Ⅱ国や民族ごとに異なる文化を比較しながら、相互に理解し合える基礎づくりをめざす学問。

(注6) 地球流体力学Ⅱ地球など、惑星上における流体の運動について論じる学問。

(注7) シエルピンスキー四面体Ⅱポーランドの数学者シエルピンスキーが発見した立体図形。

(3) 文章中に 共通するもの とあるが、その説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 身のまわりの情景や出来事に目を向けることで、自らの感情の高まりを感じるころ。

イ 暮らしのなかの一場面を大切に記憶し、小さな疑問でも解決をはかろうとするころ。

ウ 暮らしのなかで感じた小さな感動であっても、自己の成長を意識しようとするころ。

エ 身のまわりの事象や出来事を注視することで、新たな発見につなげようとするころ。

(4) 文章中の **D** に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア いいなあ

イ まれなこと

ウ 正しいころ

エ どう役立てるか

オ なぜそう見えるか

(1) 文章中の「外れ値」について、ここでの説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 例外だからこそ注意して扱うべきデータ。

イ でたためて使用する価値のないデータ。

ウ 一般的な結論を導けないようなデータ。

エ 条件を整えても正解には至らないデータ。

(2) 文章中の「わたし」の存在 を説明した、次の文を完成させなさい。ただし、**I**、**II** に入る言葉として最も適当なものを、あとのア～エのうちから一つずつ選び、その符号を答えなさい。

サイエンスでは、**I** 論理を重視するため、「わたし」は排除されるが、アートでは、**II** 「わたし」が求められる。

ア 矛盾のない平均化された

イ 一般化することができる

ウ 無理のない表現で解釈できる

エ 対極に位置するわけではない

オ ほかのだれとも同じではない

(5) 文章中に 広く学問の分野によって問いの立て方が違うことを知った方がいい とあるが、このように述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア どういう問いの立て方をするかによって、個人の感動や疑問が新たな応用研究へとつながり、さらに今後の社会のあり方に大きな影響を与えるから。

イ どこに注目して問いを立てるかによって、サイエンスに発展の可能性があることを見いだすことができ、自己の将来を展望するきっかけになるから。

ウ どこに注目して問いを立てるかによって、研究の内容が異なることを理解でき、自己の興味や関心に照らして学ぶべき学問の分野を考えられるから。

エ どういう問いの立て方をするかによって、個人の解釈だったものが、普遍的な考えとして世の中に定着するかどうかの分かれ目になってくるから。

(6) この文章から読み取れる筆者の主張について、次のようにまとめます。これを読み、あとの(a)、(b)の問いに答えなさい。

アートにおいて「！」を感じるころには、
だから私たちは、アートに向きあうとき、
I はない。
II ことができる。

(a) I に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

- ア たった一つの正解
イ 応用を重視する姿勢
ウ 偶然のアプローチ
エ 日々の生活での迷い

(b) II に入る言葉を、筆者が著した次の文章をふまえて、「！」「わたし」、「表現」という言葉を使って、**四十字以上、五十字以内**で書きなさい。

「！」を感じるには、少しだけ頭をゆるめておく必要がある。はじめから知った気でいたり、頭でっかちに接していたりすると「！」は湧いてこない。頭よりからだを通して感じるようにすると「！」に出会えるように思う。

それは、アートに対峙するときも同じかもしれない。頭の奥をちよつとゆるめる感じで作品に向きあうとき、アーティストが見出してきた「！」に出会えることが多いからだ。

(齋藤亜矢『ルビンのツボ——芸術する体と心』による。)

五 次の文章を読み、あとの(1)～(7)の問いに答えなさい。

七月下旬のある日、ホテルで働く「俺」は仕事の依頼のため、書道教室の先生である遠田^{とんだ}薫を訪ねた。生徒たちが書いた「風」の字に納得がいかない遠田は、教室の窓をすべて開放した。

熱と乾いて埃^{ほこり}っぽい庭土の香りがドツと室内になだれこむ。

「暑いー！」

「熱中症になったらどうすんの」

生徒たちは悲鳴を上げたが、人工の冷気が夏の威力にかき乱され、薄まってくのを体感し、どこかはしゃいんでいるようでもあった。

「ほら、これが夏の風だ」^A

遠田がそう宣言するのを見はからったように、暑気を切り裂いて一陣^{注1}の風が吹き抜け、庭の桜の葉を、そして生徒たちの手もとの半紙を、さわさわと揺らした。

「どんな風だった？」

窓を閉めながら遠田が尋ねると、

「ぬるかった」

「そうかな、けっこう涼しかったよ」

と生徒たちは口々に答える。

「じゃ、いま感じたことを思い浮かべながら、もう一度『風』って書いてみな」

遠田は再び文机^{注2}に向かって腰を下ろした。「そういう習慣をつけときゃ、そのうち真夏にも冬の『風』を書けるようになる」

エアコンが「二からやりなおしだ」とばかりにゴウゴウと音を立てる。でも生徒たちは気を取られることなく、また涼しくなっていく部屋のなかで真剣に半紙に向きあい、それぞれの夏の「風」を書きはじめた。

納得のいく書を書きあげたものが、つぎつぎと遠田に見せにくる。最終的には生徒全員が文机のまわりに集結した。

遠田は一人一人の書を丁寧^{しやうじん}に眺め、

「うん、軽やかでいい感じの風が吹いてる。この『虫』みたいな部分の角つちよは、つぎからもう少し筆を立てて書くようにしたほうがいいかもな」

「夏の蒸し暑さがよく出てるじゃねえか。だが、そこを重視しすぎて、二画目のハネがちよつともたついちまったな。ま、滞留する風もたまにはあるってことで、よしとするか」

などと感想を述べつつ、各人の書に朱墨^{しゆぼく}で大きく花丸を描いて返した。正座した生徒たちは、自分以外の書の講評^Cにも耳を傾け、遠田の言葉にうなずいたり笑ったりする。

素人の俺の目にも、窓からの風を感じたあとの生徒たちの字は生き生きと躍動して見えた。もちろん、生徒たちの長机にある、遠田が手本として書いた「風」とはレベルがまるでちがう。遠田の手本は、夏の風のような猛々^{たけだけ}しさを秘めながらも、いわゆる「習字のお手本のなうまい字」だった。それに対して生徒たちの「風」は、いびつだったりとどしかなかったりする。

でも遠田は、手本に無理に近づけるためのアドバイスはしなかった。俺もいつしか文机ににじり寄って、生徒たちが遠田に差したす半紙に夢

中で見入った。それぞれが感じた夏の風が、思い思いの形で文字にこめられていた。まわりつくような「風」。清涼でホッと一息つける「風」。やっぱりエアコンの利いた部屋のほうがいいなという「風」。

俺は感心した。なるほど、「風」という一文字だけでも、こんなに多種多様で自由なものだったのか。書道とはこんなにのびのびと気楽に取り組めるものなのか。なにより、遠田に書を褒められ、改善点を教えてもらう子どもたちの、誇らしげで^③楽しそうな表情といたらどうだ。

たとえや指導法に少々下品だったり型破りではと思われるところはあ
るが、遠田は書道教室の先生として、やはり逸材なのだろうと察せられた。書家としてのレベルは、俺にはよくわからない。ただ、手本の文字が力強く端整で、目を惹かれるもののはたしかだ。

へのへのもへじを書いていた男の子の「風」は、あらゆる線がなんだか震えていた。

「こりゃあ……」

と遠田は言った。「おまえもしかして、吹く『風』じゃなく、引く『力ぜ』を思い浮かべながら書いたんじゃないか」

「すげえ！　なんでわかったの若先！」^(注3)

へのへのもへじの男の子は手を叩いて喜び、まわりの子たちは「その力ぜじゃないよ！」と口々に叫んで^④笑い転げた。小学生の笑いのツボがわからなかったが、それはともかく、なぜ遠田が力ぜだと見抜いたのか、俺も知りたい。

「やっぱりな。悪寒^{おかん}って感じがする」
と遠田は言った。

(1) 文章中の①④のうちから、軽やかで の「で」と同じ働きをして
いるものを一つ選び、その符号を答えなさい。

(2) 文章中に 夏の風^A とあるが、その説明として最も適当なものを、
次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 空気を一変させるような勢いがある、匂いや肌触りを感じさせるもの。

イ 室内の冷たい空気を吹き飛ばし、温度と湿度の急激な上昇をもたらすもの。

ウ むせ返るほどの暑さで、長時間浴び続けると健康を損ないかねないもの。

エ 蒸し蒸しする室内においては、少しばかり涼しげで心地良さを与えるもの。

(3) 文章中に 真夏にも冬の『風』^B を書けるようになる とあるが、この
発言の意図として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選
び、その符号を答えなさい。

ア 真冬に吹く風の呼び名を想像しながら練習することで、どんなに
暑い季節であろうとも、肌寒い情景を書き表すことができるように
するため。

イ 常時開いた窓から真夏の風を直接感じながら練習することで、そ
れぞれの季節における多様な風の字を書き表すことができるように
するため。

「オカンってなに？」

「ママのこと？」

「『ママ』って呼んでんのかよ、だっせえ」

「じゃあなんて呼ぶの」

「母ちゃん」だろ」

「嘘だ。あんたが『ママ』って呼んでるの見たことあんだからね」

子どもたちの会話はどんどん脱線していったが、遠田はいたつてマイ
ペースで、震える「風」にもゆつたりと花丸を描いたのち、

「力ぜ引いたとき、熱が高いのに寒くてぶるぶるすんだろ。あれが悪寒
だ」

と律儀に説明した。「俺がすごいんじゃない、悪寒っぽさを伝えてき
たおまえの字がすごいんだよ。その調子で、今度から『風』の一字には吹
く風の意味をこめろ。いきなり反則技かましてくんじゃねえ」

「はい」

へのへのもへじの男の子は照れ笑いしたが、いたずらが成功してうれ
しそうでもあった。

(三浦しをん『墨のゆらめき』による。)

(注1) 一陣の風Ⅱさあつとひとしきり吹く風。

(注2) 文机Ⅱ読書や書き物をするための和風の机。

(注3) 若先Ⅱ若先生の略。「若」とは、「若い方」という意味。「遠田」を指
す。

ウ 自分自身の体験を思い出しながら練習することで、どのような状
況であつても思い描いたとおりの字を書き表すことができるように
するため。

エ 手本どおりに書くのではなく、その奥深くにあるものを感じなが
ら練習することで、味わいがある字を書き表すことができるように
するため。

(4) 文章中に 書の講評^C とあるが、生徒たちに対する遠田の講評の特
徴を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一
つ選び、その符号を答えなさい。

ア 一人一人の書に対して、行為や言葉遣いが乱暴ではあるが、大き
く花丸を描いて返すように心がけていることによって生徒たちから
好かれようとしている。

イ 生徒たち一人一人の書く字は、いびつだったりたどたどしかった
りするので、最大限に夏の風の猛々しさを表せるように一貫して改
善点を指摘している。

ウ 生徒たち一人一人の感じ方はさまざまであり、それぞれの感じた
ことが思い思いの形で文字にこめられているので、欠点よりも美点
に絞って伝えている。

エ 一人一人の書に丹念に向き合つて、それぞれの字にこめられた思
いをくんで評価するだけではなく、改善点や問題点をきちんと指摘
して上達を促している。

(5) 文章中に ^Dやはり逸材なのだろう とあるが、このときの「俺」の心情を説明した次の文の **I**、**II** に入る言葉として最も適当なものを、それぞれあとのア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

「俺は、遠田に対して、**I** だけではなく、**II** という点においても、優れた先生なのだろうと感じている。」

I

ア 書家としての手本の文字が力強く、端整で目を奪われる
イ 生徒たち一人一人が感じた多様な「風」を引き出している
ウ 書道教室の先生として、生徒たちの上達を願っている
エ 型破りな指導方法で生徒の人気を集めようとしている

II

ア 書道を教えることよりも体験させることを重視する
イ のびのびと気楽に取り組める書道の形式を生み出す
ウ 生徒たちを笑わせることで書への興味を喚起させる
エ 生徒たちに楽しさとともに誇らしい思いを抱かせる

六

次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

実否は知らされども、故持明院の中納言入道、ある時、秘蔵の太刀(注1)
(事実かうそかは)

を盗ま^Aれたりけるに、侍の中に犯人ありけるを、余の侍沙汰し出して、
(取り調べて)

参らせたりしに、入道の云はく、^B「これは、我が太刀にあらず。僻事なり」
(差し上げたところ) (間違いである)

とて、返されたり。^C決定、その太刀なれども、侍の恥辱を思ひて返さ
(間違いなく)

れたりと、人、皆、これを知りけれども、その時は、無為にして過ぎけ
(無事平穩に)

り。ゆゑに、子孫も繁昌せり。
(栄えた)

〔『正法眼蔵随聞記』による。〕

(注1) 故持明院の中納言入道＝一条基家(一一三二～一二一四)。

(1) 文章中の 盗ま^Aれたりける の主語にあたるものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 侍 イ 入道 ウ 太刀 エ 子孫

(6) 文章中に ^Eゆつたりと花丸を描いた とあるが、このときの遠田の心情として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 生徒がどのような文字を書いても大きく花丸を描くという、自分の指導方針を曲げずに評価したい。

イ 生徒がどのような思惑で字を書いたとしても、その思いを文字にこめたということを大切にしたい。

ウ 生徒の脱線していく会話は気にしないが、言葉の間違いだけはきちんと正して文字を書いてほしい。

エ 生徒の脱線していく会話をほほえましく思い、そのような日常のやり取りを書道に生かしてほしい。

(7) この文章から読み取れる、遠田に対する生徒たちの思いについて、次のようにまとめます。

「信頼」という言葉を使つて、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。

生徒たちは、
ということが読み取れる。

(2) 文章中の ゆゑに を現代仮名づかいに改め、ひらがなで書きなさい。

(3) 文章中の ^Bこれは、我が太刀にあらず の言葉の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 取り調べをした結果は、私が求めていた太刀の情報ではないということ。

イ 取り調べをした結果は、私が侍に渡した太刀の情報ではないということ。

ウ 差し出された太刀は、私が大切にしまっていた太刀ではないということ。

エ 差し出された太刀は、私が侍から預かっていた太刀ではないということ。

(4) 文章中に 返されたり ^C とあるが、この行動について人々が考えた理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 取り調べられた侍の立場を守るため。

イ 取り調べた侍の名譽を重んじるため。

ウ 入道の記憶があいまいであったため。

エ 入道が間違いを恥ずかしたため。

(5) 次の文章は、川島さんと陸田さんがこの作品について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

川島さん 陸田さん。このお話の登場人物についてよくわからないから、教えてくれるかな。

陸田さん 主人の「入道」と、家来の「侍」たちが登場するよ。

川島さん そうだよな。他にも、「余の侍」が出てきたけれど、どういふ人なのだろう。

陸田さん それは、「余の侍」が何をしたかを考えると、わかるのではないかな。

川島さん あつ、そうか。

I を探し出したのか。「侍」た

ちの中には、I の侍と「余の侍」とがいたのだね。それから、最後が「ゆゑに、子孫も繁昌せり」と終わっているけれど、なぜ、子孫も繁昌したのだろう。

陸田さん そうだね。このお話から、「積善の家には必ず余慶有り」という言葉が浮かんだよ。善い行いを積み重ねた家には必ず多くの良いことがある、という意味らしいよ。中国では、昔からこのような考え方があったみたいだね。

川島さん もし、II、太刀は戻って来たかもしれないけれど、一族が栄えることはなかったのかもしれないね。

七

次の文章を読み、あとの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

腹をすかせたキツネが、ぶどう畑の柵からぶどうの房が垂れ下がっているのを見つけた。さっそく取って食べようとしたが、手が届かなかった。背伸びしたり、飛び上がったとしてもだめだった。キツネは、その場を立ち去りながらこう言った。

「」。

(参考 『イソップ物語』)

「」に入る言葉

A あれはまだ熟れていない

B ああ、きつとおもしろだろうに

C 何か、台になるものを探して来よう

(a) I に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 秘蔵 イ 犯人 ウ 無為 エ 恥辱

(b) 積善の家には必ず余慶有り について、そのように訓読する場合、返り点の付け方として正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 積 善 之 家 必 有 余 慶
イ 積 善 之 家 必 有 余 慶
ウ 積 善 之 家 必 有 余 慶
エ 積 善 之 家 必 有 余 慶

(c) II に入る言葉を、「……ないで、……」という形を使って、十五字以上、二十字以内で書きなさい。

〈条件〉

① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。

② 前段では、文章中の に入る言葉を、A～Cのうちから一つ選んで示し、その発言に込められたキツネの気持ちを書くこと。

なお、A～Cのどれを選んでも、そのこと自体が採点に影響することはない。

③ 後段では、あなたの選んだ言葉で完成した文章から、どのようなことが読み取れるのか、自分の体験(見たたり聞いたりしたことを含む。)をふまえて、説明すること。

〈注意事項〉

① 氏名や題名は書かないこと。

② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。

③ に入る言葉を示すとき、A～Cの符号を用いてもよい。

受 検 番 号			
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨

氏名	
----	--

解答上の注意事項

- 1 マーク式で解答する問題は、○の中を正確に塗りつぶすこと。
- 2 記述式で解答する問題は、解答欄からはみ出さないように書くこと。
- 3 答えを直すときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

良い例	悪い例	
	 線	 丸囲み
	 小さい	 レ点
	 はみ出し	 うすい

(1)	ア	イ	ウ	エ
(2)	ア	イ	ウ	エ
(3)	ア	イ	ウ	エ

二	※解答欄は裏面
三	※解答欄は裏面

[illegible]

五					
(7)		(6)	(4)	(2)	(1)
		ア	ア	ア	①
		イ	イ	イ	②
		ウ	ウ	ウ	③
		エ	エ	エ	④
25			(5)	(3)	
			I		
			ア	ア	
			イ	イ	
			ウ	ウ	
			エ	エ	
			II		
			ア		
			イ		
35			ウ		
			エ		

[illegible]

七

※解答欄は裏面

